

## 自動化生産ラインを自社で設計・製作し

## ポリエステル化粧合板の高い生産性を実現する。

### 合板のトップメーカーから

### 信頼を獲得し重要なパートナーへ

ポリエステル化粧合板（ポリ合板）とは、ラワン合板等に木目調などの柄が施された化粧紙を貼り合わせ、さらにポリエステル樹脂を塗布することで耐水性や耐摩耗性等を持たせたものをいう。天然木よりも安く、美しく仕上がるため、集合住宅や店舗の内装などに広く普及している。

近江ボードは、このポリ合板製造の専門メーカーで、色柄サイズなどが異なる約300品種の合板を毎月5万枚製造。そのほとんどを合成樹脂化粧合板の国内トップメーカーに納入している。

「この大手メーカーは合成樹脂化粧合板の代表格であるメラミン化粧合板（メラミン樹脂を含浸させた紙を積層させたもの）を自社で製造し、高いシェアを誇っている。私たちが供給するポリ合板が担う役割は同社の製品ラインアップを補うことだ」と北川剛社長は話す。

メラミン化粧合板は堅牢で耐熱性に優れているが高価だ。この大手メーカーの高い競争力は「堅牢さが求められるところにはメラミン合板を、

それほどの耐久性を求めないところにはポリ合板を」といったように

柔軟に対応できる商品群に支えられている。大規模な製造設備を要するメラミン合板は

自社で製造し、ポリ合板をOEM（相手先ブランドによる製造）でまかなっている。このメーカーの戦略にとって近江ボードは重要なパートナーだ。「得意先の大手メーカーにポリ合板を供給する事業者は4社あるが、受注量は当社が

トップ。大きな信頼を寄せていただいている」。自動化により省力化を実現

### ポリ合板を低コストで生産する

ポリ合板の市場規模はそう大きくはなく、ニッチな分野といえる。本格的な製造設備を構築する企業は全国に10社ほど、近江ボードはその



ポリエステル樹脂を合板に塗布する「自動ポリコートライン」

工場を見せていただいた。規格サイズに裁断されたラワン材の合板に接着剤を塗り、木目柄などの化粧紙を貼ってから、ホットプレスで熱硬化させるのが「自動紙貼りライン」。その上にポリエステル樹脂を塗布していくのが「ポリコートライン」。一連の工程に人手はほとんど必要なく、化粧紙を基材表面にシワが生じないように密着させるデリケートな作業さえも自動で進めていく。他社にはここまで省力化できる能力はない。

### ライン設計から制御回路製作まで全てが自社でできる強みを発揮

これらの生産ラインは全て自社設計。構成部品も板金から自力でつくり、シーケンス制御に使う回路までも自社製というから驚くほかない。蓄えたポリ合板製造のノウハウをベースに「最も生産性が高まるライン」を発想するのだから、機

械メーカーの装置よりパフォーマンスがいいのも当然だ。そのうえ、部品の内製によって設備の製造コストも格段にダウンできる。

「こんなことができるのは、当社の前身事業所がポリ合板の省力化設備を手掛けていたから。そこでは50年近く前の昭和40年代からポリ合板をつくってきたが、手作業中心の生産を効率化しようとして自動化ラインを考案。やがて省力化設備の製造を事業の中心に据えるようになった」。実は北川社長はこの事業所に勤務して設備の設計製作を習得。その後、工場を受け継いで1994年にポリ合板の専門メーカーとして近江ボードを旗揚げしたのだ。

「設立間もなく大手合板メーカーと出会い、そのメーカーの協力会社として発展してきた。当社のように高度な自動化ラインを持つ業者がいなかったことから受注量が次第に増加。そこで



化粧紙を貼り、ホットプレスで熱硬化させる「自動紙貼りライン」



人手を掛けず、ポリフィルムをシワができないように張り合わせる

徹底的に生産効率を高め、生産品種の幅も広がっていた。このスタイルを早々に確立できたことが幸運だった」。もともとポリ合板製造の利益率はそう高くはなく、建築市場が勢いを弱める中で事業者の淘汰も進んでいる。だが、近江ボードの生産量はむしろ増えているという。

### 自力で設備を進化させるから材質が変わっても迅速に対応できる

同社の強みを象徴するエピソードがある。3年ほど前、在来品のポリフィルムが生産中止となり、伸縮性のない材料を使うようになった。大半の同業他社は伸びないフィルムをシワなく貼るために工程を大きく増やさざるを得なかった。当然、採算性は低下する。

だが、近江ボードだけは持ち前のライン構築力を発揮して「半自動で新しいフィルムを貼れる独自の仕組み」を考案し、従来の採算性を維持できた。

「ポリ合板の製造設備を供給できるメーカーが国内にわずかしかないこともあり、自力で設備を進化させる意義は大きい。合成樹脂化粧合板市場はじりじりと縮みつつあるが、得意先の大手メーカーは競争力がありシェアを伸ばしている。そのおかげで当社の事業も堅調に推移している。これに甘んじることなく、新たな挑戦もしていきたい」。北川社長が思い描くのはハンドメイドで丹念に仕上げる高付加価値の製品づくり。職人技の世界にあえて挑み若手社員を育てていきたいと夢を広げる。

※シーケンス制御／あらかじめ定められた順序または手続きに従って制御の各段階を逐次進めていく制御



Voice 代表取締役社長 北川 剛氏

当社は不動産事業も展開し、彦根市川瀬地区、多賀町、愛荘町で宅地を分譲しています。  
また、bjリーグの滋賀レイクスターズを支援するなど地域貢献にも努めて地元にも愛される企業を目指しています。

Profile 株式会社近江ボード



- 本社/彦根市南川瀬町321-2
- 設立/1994年
- 資本金/2,000万円
- 従業員数/15名
- 事業内容/各種建材の製造・販売、宅地建物取引業、建設業、二級建築士事務所

<http://www.ohmiboard.com/>